

令和7年度 環境土木・建築学科入学者に対する履修の心得

1. 環境土木・建築学科とその教育方針

従来、土木工学は、自然環境に対して交通基盤やライフラインといった社会資本を建設する工学として発達し、一方建築学は、人間生活を収容する人工環境を建設する工学として発達してきた。両者はそれぞれの歴史が異なり、特にわが国では個別の分野として確立してきた。しかしながら、両者は良好な社会環境を創造するための工学という意味においては共通しており、更には近年の急速な都市化、自然環境の劣化、情報社会の到来等によって、両者が共同して執り行う事業が増加しつつある。こうした背景を踏まえ、本学では、従来独立であった土木工学科、建築学科を合わせて「社会環境工学科」とした後、平成24年度からは学科名称を「環境土木・建築学科」とし、その中に環境土木工学コースと建築学コースを設けることとした。平成29年度からはそれぞれのコースを環境土木工学プログラムと建築学プログラムとして継承し（環境土木工学プログラムは日本技術者教育認定機構（JABEE）の認証プログラムであり、本プログラムの特徴である）、2年次への進級時に各プログラムへの進路分けを行うこととしている。

環境土木・建築学科における教育は、良好な社会環境を創造するための基礎知識を修得することを旨とし、従来の土木工学科、建築学科で行われてきた科目を統廃合して、1) 共通、2) 構造・材料、3) 地盤、4) 水理・環境、5) 計画・意匠の五つの分野に区分して行うこととしている。即ち、図学、数学、力学、確率・統計、情報処理、計測技術等、環境土木工学と建築学に共通して必要な専門基礎科目を四年一貫して履修するとともに、残る四つの専門分野においては、1年次に「構造物と技術の発展」「都市と文明の歴史」「形と力」「人間活動と環境」、2年次に「構造力学及び演習」（環境土木工学プログラム）あるいは「建築構造力学及び演習」（建築学プログラム）「空間計画論」の専門基礎科目を履修した後、2・3・4年次にそれぞれの専門科目を選択して履修することのできるカリキュラム編成を組んでいる。それによって、環境土木工学と建築学全体にわたる幅広い基礎知識とそれぞれの専門分野における基礎知識の両方の修得が期待されている。

環境土木工学と建築学に関するこれらの基礎知識に加えて、さらに奥深い専門知識を修得するには、大学院への進学が必要となる。環境土木工学プログラムおよび建築学プログラムに対応する大学院専攻としては、工学研究科土木工学専攻、環境学研究科都市環境学専攻（持続発展学コース、建築学コース）が置かれている。これらの専攻には前期2年（修士）と後期3年（博士）の課程があり、特に優秀な学生には、前期・後期をあわせて1年あるいは2年短縮し修了できる道も開かれている。諸君らの大多数がこうした大学院に進学して専門的かつ高度な教育を享受し、先端的な研究活動に従事することを期待している。

2. 一般的な履修上の注意

- (1) 高校までと違い大学では、履修科目の決定などにおいて学生の自主性が要求される。「単位の取得が容易だから」とか「多くの人が取ることから」などという安易な理由で科目を決めずに、自分の学びたいことは何か、環境土木工学と建築学の学習・研究に必要なことは何かなどをよく考えて、自分で決めることが大切である。
- (2) 各自の入学した年度のカリキュラムが適用されるので、2年次以降も本資料を保管し履修の際の参考資料とすること。
- (3) 全学教育科目の中でも、語学（言語文化科目）や数学・物理学・化学（自然系基礎科目）は、とくに後の専門教育において大変重要である。単に単位を取ることだけでなく、内容の理解を十分深めるよう勉強しておくこと。
- (4) 環境土木工学と建築学は、工学部の中でも最も人文・社会科学の素養が求められる学問である。それに係わる全学教育科目の勉強も重要である。
- (5) 学習上の不正行為（カンニング、他人のレポートの写しなど）は、重大な「犯罪行為」であることを自覚すること（そのような行為が真剣に取り組んでいる他人にどのような影響を及ぼすかを考えてみる）。不正行為が発覚したときは、その学期の全科目の単位がはく奪されるなど、厳重な処分が行われる。（「環境土木・建築学科入学者に対する履修の心得」末尾の「定期試験に関する注意事項」と「レポートに関する注意事項」参照。）

3. 専門系科目の履修について

環境土木工学と建築学は、力学に基礎をおく応用工学だけでなく、防災・環境問題や交通・都市問題など社会科学とも深い関わりを持つ総合工学である。名古屋大学工学部環境土木・建築学科では、こうした広い内容を学生諸君に確実に理解してもらうために、環境土木工学プログラム、建築学プログラムそれぞれのプログラムが、別紙に示すようなカリキュラム（全学教育科目を除く）を用意している。共通科目はもちろん、プログラム内の各系についてもまんべんなく履修することが望ましい。とくに1・2年生では各系の重要な基礎を勉強するので、すべてが必修科目と考えて履修すること。

各科目のシラバスは名古屋大学ポータルから検索・閲覧することができる。シラバスには、授業目標、授業内容および成績評価方法などの事項が記されている。両プログラムのカリキュラムを踏まえ、各科目の内容を十分に吟味して「どの科目をどのように勉強したらよいか」考えながら年間の学習計画を立てること。なお、シラバスの閲覧方法は、名大ポータルへ



4. 環境土木工学プログラムと建築学プログラムのプログラム分けについて

環境土木工学プログラムと建築学プログラムへのプログラム分けは2年次への進級時に行われる。基本的には、諸君の希望によりプログラムの選択が行われるが、いずれかのプログラムの定員を上回る希望がある場合には、必ずしも希望のプログラムへの進級はできない。この調整は、1年次に履修した科目の成績を考慮して行われる。したがって、希望のプログラムへの配属のためには入学後も真剣に学習に取り組む必要がある。同じ科目でもプログラムによって必修科目と選択科目に分かれているので注意すること。なお、プログラム分けの詳細なガイダンスが秋に行われるので、開催日時と場所を掲示もしくは学科からの配信メールにて確認するとともに、必ず出席すること。

5. 大学院入試について

- (1)環境土木・建築学科の上に位置する大学院専攻には、工学研究科土木工学専攻と環境学研究所都市環境学専攻（持続発展学コース，建築学コース）の2専攻がある。
- (2)環境土木・建築学科においては，大多数の学生が大学院修士課程（博士前期課程）に進学している．近年，他大学からの受験生も大幅に増えており，合格するには十分な試験準備（専門系科目や語学，数学などの勉強）が必要である．

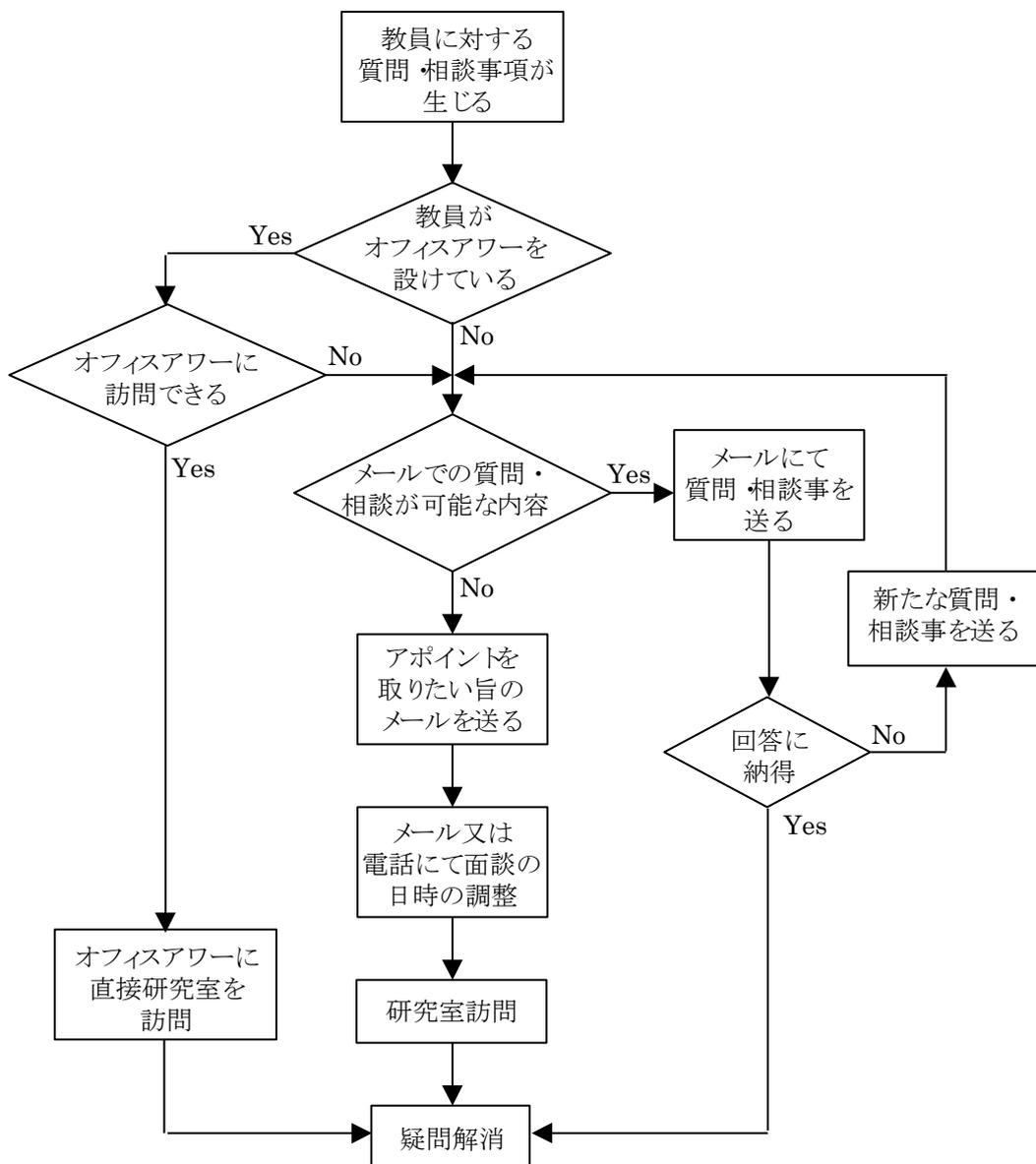
6. 飛び級制度について

- (1)大学院への進学を希望するもので，成績が極めて優秀なものに対して，希望者にはいわゆる「飛び級」の制度を適用することができる．これは，学部を3年間で終了して大学院へ進学するものである．ただしこの場合，学部卒の資格（つまり「学士（工学）」の学位）は与えられない．
- (2)「飛び級」の資格が与えられるには，2年次までの成績がトップクラスであること，3年次に大学院入試を4年生と一緒に受験して合格すること，3年終了時点の成績がトップクラスを維持していること，の3点が必要である．

7. オフィスアワー等について

オフィスアワー(Office Hour)とは、学生諸君が、事前にアポイントメントをとることなく、質問や相談等のため各教員の研究室を訪れてよい時間のことである。

このシステムは、諸君が直接研究室を訪問したり電話をしたりしても、教員が不在でなかなかコンタクトを取ることができない場合があるので、諸君の便宜を図るために設けられたものである。オフィスアワーを設けている教員は、その時間は必ず研究室に在室することになっている。しかし、最近では、電子メールで質問をしたり、アポイントメントを取ったりすることが可能なので、特にオフィスアワーを設けていない教員も多い。したがって、オフィスアワーを設けていないからといって、授業時間以外は質問できないわけではなく、また、オフィスアワーを設けている教員も、電子メールでの質問やアポイントメントを受け付ける。質問・相談などがあり、教員とコンタクトを取りたい場合は、以下のフローチャートを参考にすると良い。



定期試験に関する注意事項（重要）

1. 試験中机の上に置いてよいものは、時計、筆記用具（許可されている場合は電卓）のみとする。ただし、参考書などを持ち込み可の試験科目の場合は、監督者の指示に従うこと。
2. 携帯電話を持っている人は、電源を必ず切ってかばんにしまい身につけないこと。携帯電話を時計として使用することはできない。
3. 筆記用具とは、シャープペンシル、鉛筆、消しゴム、定規であり、筆入れはかばんに入れ、机の上には置かないこと。
4. 各自のかばんなどのものは監督者が指定した場所（例えば、机の下）に置くこと。いすや机の中に物を置かないこと。
5. 前の席から詰めて、できるだけ左右一人分は空けて座ること。また、試験開始前に席を配置し直すことがあるので、監督者の指示に従って速やかに移動すること。
6. よそ見をしたり、不審な行動をとる学生に対して、着席位置を変えたり、退出させることがある。
7. カンニング発覚の場合は、規定により、厳正な措置が取られる。措置の内容としては、退学、停学または訓告等の懲戒処分に加えて、当該学生が当該学期において修得した全授業科目の単位を原則として不認定とする。

レポートに関する注意事項（重要）

1. レポートを他の授業時間内で行うことは認められない。
2. 書籍やWebなどの他人の文章や図表（他人のレポートを含む）をあたかも自分のレポートとして提出することは剽窃であり、認められない。書籍やWebの内容を使用する場合は、出所を明示し引用すること。剽窃と判断されたレポートは、上記のカンニング行為と同様とみなされ、カンニング発覚と同様の措置が取られる場合がある。

建築学プログラムの学習・教育目標

建築学とは、人間の様々な生活行為を含む空間を創造する総合学である。本プログラムでは、対象領域を建築単体から都市や環境全般へ、物理環境から情報環境へと広げつつ、それら建築および都市における計画・設計・生産・保全のための学術・技術・芸術について、計画・デザイン、環境・設備、構造・材料・生産技術の3つの分野を基礎に総合的に教育を行い、幅広いパースペクティブの中で高度な専門知識を駆使し得る個性的で創造力豊かな人材を育成することを目標としている。そして、それを具体的に実現するため、「T字型」教育カリキュラムを採っている。それは、全ての学生が計画・デザイン、環境・設備、構造・材料・生産技術の3つの分野における基礎知識を修得し、建築学の全体像を把握した後、学生自身の関心と自主的な判断により、それぞれの専門分野の科目を選択して専門知識を深く学ぶことを可能とするカリキュラムであり、幅広く堅牢な基礎知識の上に専門家として必要不可欠である高度な専門知識の修得が意図されている。さらに設計演習などの各種演習や卒業研究におけるきめ細かいマンツウマン教育を通じて、修得した知識を社会に応用していくための社会性、協調性の涵養も期待されている。

以下、建築学プログラムにおける専門科目の学習を通して修得される知識と養成される具体的な能力を示す。

- (A) 自然・モノ・人の視点からさまざまな現象などを考えるための学術・技術・芸術に関する基礎的知識
- (B) 建築活動が社会および自然に与える影響を予測・評価し、その可否を判断する能力
- (C) 建築・都市に関する幅広い基礎的な専門知識と設計能力・技術力
 - (1) 計画・デザイン分野
 - (2) 環境・設備分野
 - (3) 構造・材料・生産技術分野
- (D) 建築・都市に関する高度な専門知識を駆使し、個性的かつ創造的に活動するための設計能力・技術力
- (E) 建築・都市が抱える問題を絶えず総合的に把握・解析し、かつ建築・都市の質的向上を図る能力
- (F) 常に多様な価値観を認めあい、他と協調し、幅広く意見交換を行いながら意志決定していく能力
- (G) 自然現象や社会現象、造形に接して得た感動を言葉や図によって他者に伝える能力
- (H) 建築図書を読解、表記、説明する能力

一級建築士および国際的な建築家資格の取得に必要な総合的専門知識

建築学プログラムでの倫理教育への取り組み

建築学は、地域固有の歴史・伝統・文化を尊重し、地球規模の自然環境と知識・技術を共生させ豊かな人間生活の基盤となるものです。そこで、建築活動が社会と自然に与える影響を適切に予測・評価し、その当否を判断する能力を高めるため、建築学プログラムでは専門系の様々な科目のなかで、以下に示す建築分野の専門家・技術者の業務や実務と倫理の関わりについて教育をしています。なお、一般的な工学技術者倫理に関しては、工学部共通科目として「工学倫理」が選択科目として設けられています。

- 1) 土地に定着する建築物・建築技術としての特質と建築倫理・技術者倫理
- 2) 長寿命の建築物・建築技術としての特質と建築倫理・技術者倫理
- 3) シェルターとしての建築物・建築技術の特質と建築倫理・技術者倫理
- 4) ライフサイクルを通しての建築物・建築技術の特質と建築倫理・技術者倫理
- 5) 美的価値を通しての建築物・建築技術の特質と建築倫理・技術者倫理
- 6) 多様な性能を満たす建築物・建築技術の特質と建築倫理・技術者倫理
- 7) 生産工程を通じた建築物・建築技術の特質と建築倫理・技術者倫理
- 8) 建築物の存在により発生する災害に関わる建築物・建築技術の特質と建築倫理・技術者倫理

建築倫理・技術者倫理に関わる専門系各分野の科目は、以下の通りです。特に必修科目を通じて倫理教育を行っています。

【必修科目】

・専門基礎科目

構造物と技術の発展，都市と文明の歴史，人間活動と環境，空間設計工学及び演習第1，空間設計論，空間設計工学及び演習第2

・専門科目

建築史第1，建築史第2，建築計画第1，建築設計及び演習第1，鉄筋コンクリート構造，建築生産システム，建築法規，防災安全，卒業研究A，卒業研究B

【選択科目】

・専門基礎科目／専門科目／関連専門科目

空間計画論，社会資本計画学，交通論，建築設計及び演習第2，建築計画第2，都市・国土計画，設備工学，環境システム設計及び演習，構造設計工学，建築基礎構造，建築材料工学，総合設計及び演習第1（構造），総合設計及び演習第1（計画），総合設計及び演習第1（環境設備），建築史第3，総合設計及び演習第2，土木史

建築士試験の受験資格に関わる「指定科目」について

平成 20 年の建築士制度の改正に伴い、一級・二級・木造建築士試験の受験資格要件が変更され、平成 21 年度大学（学部）入学者からは、国土交通大臣の指定する建築に関する科目（指定科目）を修めて卒業した者であって、その卒業後建築に関する実務として国土交通省令で定めるもの（建築実務）の経験を 2 年以上有する者に受験資格が与えられることとなった。さらに令和 2 年の一級建築士試験からは、受験資格の要件が改正され、建築実務の経験は一級建築士免許の登録要件に改められた。

工学部環境土木・建築学科建築学プログラムでは、一級・二級・木造建築士試験の受験資格要件を満たす指定科目を用意した。平成 29 年度以降の大学（学部）入学者は、大学（学部）在籍中に右表に示す指定科目を必要単位数履修して卒業することにより、建築士試験の受験資格が与えられる。一級建築士については、指定科目を履修して卒業することにより、一級建築士試験の受験資格が与えられ、一級建築士試験の合格と 2 年以上の建築実務を経験することによって一級建築士の免許登録が可能となる。二級・木造建築士については、指定科目を履修して卒業することに加えて、二級・木造建築士試験の合格によって、実務経験なしで二級・木造建築士の免許登録が可能である。

指定科目の分類 (必要単位数)		建築学プログラムで履修できる指定科目			
二級・木造	一級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数
①建築設計 製図 実務0～2年 (5単位以上) 実務3～5年 (3単位以上)	①建築設計 製図 (7単位以上)	空間設計工学及び演習第1	2	必修	3
		空間設計工学及び演習第2	2	必修	3
		建築設計及び演習第1	3	必修	3
		建築設計及び演習第2	3	選択	3
		総合設計及び演習第1(構造)	4	選択	3
		総合設計及び演習第1(計画)	4	選択	3
②～④ 建築計画、 建築環境工 学又は建築 設備 実務0～2年 (7単位以上) 実務3～5年 (2単位以上)	②建築計画 (7単位以上)	空間設計論	2	必修	2
		建築計画第1	3	必修	2
		建築計画第2	3	選択	2
		建築史第1	2	必修	2
		建築史第2	3	必修	2
		建築史第3	3	選択	2
	③建築環境工学 (2単位以上)	物理環境工学	2	必修	2
		人間環境工学	3	必修	2
	④建築設備 (2単位以上)	環境システム工学	3	必修	2
		設備工学	3	選択	2
		環境システム設計及び演習	3	選択	2.5
	⑤～⑦ 構造力学、 建築一般構 造又は建築 材料 実務0～2年 (6単位以上) 実務3～5年 (3単位以上)	⑤構造力学 (4単位以上)	形と力	1	必修
建築構造力学及び演習			2	必修	2.5
応用構造力学及び演習			2	必修	2.5
解析力学及び演習			2	選択	3
耐震工学			3	選択	2
建築構造解析及び演習			3	選択	2.5
⑥建築一般 構造 (3単位以上)		構造設計工学	3	選択	2
		鉄骨構造	2	必修	2
		鉄筋コンクリート構造	3	必修	2
⑦建築材料 (2単位以上)		建築基礎構造	3	選択	2
		コンクリート工学	2	必修	2
		構造・材料実験法	3	必修	2
建築材料工学	3	選択	2		
⑧建築生産 (1単位以上)	⑧建築生産 (2単位以上)	建築生産システム	3	必修	2
⑨建築法規 (1単位以上)	⑨建築法規 (1単位以上)	建築法規	3	必修	1
⑩その他 (適宜)	⑩その他 (適宜)	図学	1	必修	2
		都市と文明の歴史	1	必修	2
		人間活動と環境	1	必修	2
		構造物と技術の発展	1	必修	2
		空間計画論	2	選択	2
		情報処理及び演習	2	選択	1.5
		防災安全	3	必修	1
		計測技術及び実習	3	選択	2.5
		造形演習第2	3	選択	1
		都市・国土計画	3	選択	2
		建築学特別講義	4	選択	2
10～20単位	30単位	①～⑨の必要単位数合計			
40単位(実務0年) 30単位(実務1年) 20単位(実務2年)	60単位(実務2年) 50単位(実務3年) 40単位(実務4年)	必要総単位数(①～⑩の単位数合計)			

環境土木・建築学科 建築学プログラム カリキュラムツリーダイアグラム (2025(令和7)年度入学者用)

履修時間		1年 春学期 必・選/単位数	1年 秋学期 必・選/単位数	2年 春学期 必・選/単位数	2年 秋学期 必・選/単位数	3年 春学期 必・選/単位数	3年 秋学期 必・選/単位数	4年 春学期 必・選/単位数	4年 秋学期 必・選/単位数	
基礎系	数学系	微分積分学I ・選択/2	微分積分学II ・選択/2	複素関数論 ・選択/2		数学2及び演習 ・選択/4		データ統計解析B ・選択/2		
		線形代数学I ・選択/2	線形代数学II ・選択/2							
	物理学系	力学I ●必修/2	力学II ●必修/2	解析力学及び演習 ・選択/3						
			電磁気学I ●必修/2							
			物理学実験 ●必修/2							
	化学系	化学基礎I ●必修/2	化学基礎II ●必修/2							
		化学実験 ・選択/1.5								
	工学系・その他	工学概論第1 ・選択/1							工学概論第2 ・選択/1	#工学概論第3 ・選択/2
		#工学概論第4 ・選択/3							テクニカルライティング ・選択/2	経営工学 ・選択/2
		工学倫理 ・選択/2								産業と経済 ・選択/2
共通基礎科目(「大学での学び」基礎論、基礎セミナー、言語文化、健康・スポーツ科学、データ科学) ●必修/20(●必修/1、●必修/2、●必修/13、●必修/2、●必修/2)								特許及び知的財産 ・選択/1		
教養科目(現代教養、国際理解、超学部セミナー) ●必修/4										
土木系(関連専門)					衛生工学 ・選択/2			土木史 ・選択/2	#環境土木・建築学概論 ・選択/2	
各系共通	情報系	情報処理序説 ●必修/2		情報処理及び演習 ・選択/1.5					土質力学及び演習 ・選択/4	
	造形系		造形演習第1 ・選択/1		造形演習第2 ・選択/1					
	製図系	図学 ●必修/2	空間設計工学及び演習第1 ●必修/3	空間設計工学及び演習第2 ●必修/3	建築設計及び演習第1 ●必修/3	建築設計及び演習第2 ・選択/3	総合設計及び演習第1(計画) ・選択/3	総合設計及び演習第2 ・選択/3		
	共通				建築法規 ●必修/1		総合設計及び演習第1(環境設備) ・選択/3	総合設計及び演習第1(構造) ・選択/3	卒業研究A ●必修/5	
計画系	都市計画	都市と文明の歴史 ●必修/2		空間設計論 ●必修/2	空間計画論 ・選択/2	社会資本計画学 ・選択/2	都市・国土計画 ・選択/2	交通論 ・選択/2		
	建築計画					建築計画第1 ●必修/2	建築計画第2 ・選択/2			
環境系	歴史意匠		人間活動と環境 ●必修/2		建築史第1 ●必修/2	建築史第2 ●必修/2	建築史第3 ・選択/2			
	設備系					環境システム工学 ●必修/2	設備工学 ・選択/2			
構造系	環境系			物理環境工学 ●必修/2		人間環境工学 ●必修/2	環境システム設計及び演習 ・選択/2.5	流れの力学及び演習 ・選択/4		
	材料系	建造物と技術の発展 ●必修/2					建築生産システム ●必修/2			
	力学系		形と力 ●必修/2	建築構造力学及び演習 ●必修/2.5	コンクリート工学 ●必修/2		建築材料工学 ・選択/2			
設計系	設計系				鉄骨構造 ●必修/2	鉄筋コンクリート構造 ●必修/2	建築構造解析及び演習 ・選択/2.5			
						耐震工学 ・選択/2	建築基礎構造 ・選択/2			

#原則として短期留学生を対象とした科目

卒業論文の提出と発表

工学部
ディプロマ
・ポリシー

工学を拓く
ための学力
および
資質・能力

幅広い視野と
応用・思考力

科学に対する
強い興味

豊かな未来
社会の創出に
貢献する姿勢